

国立公園に選定される

観光客の増加に伴い、十和田湖への交通の便も向上しました。1920 年、秋田鉄道が毛馬内（現・十和田南駅）まで開通し、さらに駅から発荷峠を経由して十和田湖東岸の子の口まで直接人々を運ぶバスが運行されるようになりました。翌年、和井内は十和田湖を国立公園の候補地とするよう陳情し、また、大正天皇の下の子二人を和井内十和田ホテルに迎えました。1927 年、十和田湖は鉄道省と全国紙 2 社の共催で選定された「日本新八景」のひとつに数えられました。和井内は 1922 年 5 月に 65 歳で亡くなりましたが、彼の宣伝活動は実を結び、十和田湖は 1936 年に正式に十和田八幡平国立公園の一部となりました。

【キャプション（上部右）】

十和田湖観光案内地図、1928 年版

パネル 3 枚目「3. 十和田湖を日本一の観光地に！」③

「われ幻の魚を見たり」（和井内貞行の映画を紹介）